



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

11月号—No.259

2016.10.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【アスパラガスグリーン】アスパラガスの新芽のような淡い黄緑色。

アスパラガスは地中海原産の多年草。成長すると雫が隠れられるほど茂ることから、和名を「オランダキジカクシ(和蘭陀雫隠)」というらしい。江戸時代に観賞用としてオランダから伝わったのが最初のことだが、アスパラをじっと見つめている姿を想像すると不思議な感じがする。食用が始まったのは明治時代、北海道で栽培が始まったのは大正時代から。

## ●目次 / contents

### 今月のニュース.....2

平成28年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」 「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」スタート

### 財団からのお知らせ.....4

ステージラボ豊田セッション参加者募集 / 地域創造レターPDF版閲覧のご案内 / 公立美術館における出前型(オーダーメイド型)研修開催地募集 / 雑誌「地域創造」第40号のご案内

### 今月の情報.....6

地域通信 / アーツセンター情報

### 今月のレポート.....12

石川県金沢市 金沢市民芸術村20周年「市民が主役」

●「公共ホール音楽活性化事業」「公共ホール現代ダンス活性化事業」

# 今年度の「おんかつ」「ダン活」がスタート

平成28年度  
公共ホール音楽活性化事業  
公共ホール現代ダンス活性化事業

写真左上：「おんかつ」大分県九重町の南山田小学校でのアウトリーチ。チェロの加藤文枝さんの演奏する曲からイメージした絵を描く子どもたち(写真左はピアノの山田剛史さん)  
右上：ヴィタリ・ユシュマノフさんは子どもたちの疑問にやさしく答える  
左下：「ダン活」広島市立中島小学校でのアウトリーチ。北尾亘さんと一緒に踊る  
右下：11人の市民も参加した「KUTSUKUZU」公演

●平成28年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体(主会場/アーティスト)

- 平川市(平川市文化センター/岩崎洵奈)
- 日立市(日立シビックセンター/塚越慎子)
- 吉川市(吉川市民交流センターおあしず/塚越慎子)
- 美里町(美里町遺跡の森館/岩崎洵奈)
- 宮代町(宮代町立コミュニティセンター進修館/福川伸陽)
- 鎌ヶ谷市(さくら鎌ヶ谷市民会館/岩崎洵奈)
- 文京区(文京シビックホール/坂口昌優)
- 滑川市(滑川西地区コミュニティホール/塚越慎子)
- 韮崎市(東京エレクトロン韮崎文化ホール/喜名雅)
- 須坂市(須坂市文化会館/ヴィタリ・ユシュマノフ)
- 関市(関市文化会館/喜名雅)
- 城陽市(文化パルク城陽/加藤文枝)
- 王寺町(王寺町文化福祉センター /塚越慎子)
- 上富田町(上富田文化会館/坂口昌優、加藤文枝)
- 安来市(広瀬中央交流センター/ヴィタリ・ユシュマノフ)
- 小松島市(小松島市ミリカホール/福川伸陽)
- 九重町(九重文化センター/加藤文枝、ヴィタリ・ユシュマノフ)

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ  
芸術環境部 阿比留・水上  
Tel. 03-5573-4069  
onkatsu@jafra.or.jp



地域創造では「公共ホール等活性化支援事業」として、音楽・ダンス・演劇・邦楽・美術の各ジャンルで地域と連携した事業を展開しています。例年、秋口から各地での事業が本格的に始まりますが、今年度は「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」が全国17地域、「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」が全国8地域で行われます。平成28年度のおんかつは大分県九重町、ダン活は広島市の取り組みをレポートします。こうした各地の事業は、当財団ウェブサイト(<http://www.jafra.or.jp/j/guide/schedule/index.php>)でスケジュールを紹介していますので、近くで行われる事業をぜひ視察していただければと思います。

## ●チェロ×声楽×ピアノのアンサンブルが実現～九重文化センター

「おんかつ」は公共ホールとクラシック音楽のアーティストが、お互いにアイデアを出し合い、その地域ならではのアクティビティ(地域交流プログラム)とコンサートを共同で企画・実施する事業です。

町の多くがくじゅう連山に連なる阿蘇くじゅう国立公園に指定されている大分県九重町の九重文化センター。おんかつには平成23年度のクワテール B に続き、2度目の応募となります。今回は、9月30日から10月2日まで、加藤文枝さん(チェロ)、ヴィタリ・ユシュマノフさん(バリトン)、山田剛史さん(ピアノ)という珍しい組み合わせで、南山田小学校へのアウトリーチと、地元コーラスグループ「コールやまなみ」および若手まちづくりグループ「タナー」との地域交流プログラムが実施されました。

1回目の事業も担当した後藤大さん(九重町役場社会教育課)は、「1回目の時はおんかつ支援事業も行う予定でしたが、演奏家の急病というアクシデントで実現できませんでした。小学校へのアウトリーチを継続したくて、平成26年度から大分県芸術文化短期大学に委託して教育者や学生、地元演奏家による楽器体験、美術などのアウトリーチを行っています。今回は、改めて、音楽を職業としている方の演奏や生き方にふれる機会を提供したいと思い、応募しました。田舎にいと価値観が小さくまと

まりがちです。でも、知らないものは存在しない、関係ないのではなく、演奏家という自分たちとは異なる生き方をしている人と触れ合うことで世界が広がる、そういう機会を提供し続けることが必要だと思っています」と話します。

南山田小学校は全児童合わせて88人の山間の小学校で、今回は1年生から3年生までの45人と4年生以上の43人に分けて、アクティビティが行われました。担当の恒藤教頭先生が九重文化ホールで行われるコンサートのポスターを掲げ、子どもたちに演奏家を紹介。「チャイコフスキー：ただ憧れを知る者だけが」でチェロとヴァリトンという珍しい組み合わせのアンサンブルを披露した後、加藤さん、ヴィタリさんがそれぞれ「イメージする」をテーマにアクティビティを行いました。

ロシア生まれで、ドイツで音楽を勉強し、現在は日本で活動するヴィタリさんは、ロシア民謡やオペラ歌曲を原語で披露し、歌から受け取ったイメージについて日本語で交流。「歌曲は短い時間でストーリーを伝えなければならないので、言葉では言えない気持ちを伝えてくれるピアノ伴奏も大切です」とヴィタリさん。また加藤さんは、低学年とは音楽のイメージを絵にするワーク、高学年とは音楽のイメージにピッタリの名画を選ぶワークを行いました。子どもたちからは、「今日は(演奏家と)コミュニケーションがあって参加できたので、距離を感じなかった。知らない音楽だったからイメージがどんどん広がった」という感想が聞かれるなど、素敵な出会いになりました。

### ●ワークショップ参加者が公演に出演 ～JMSアステールプラザ

「ダン活」はホールとアーティストが共同で企画し、地域交流プログラム(アウトリーチと公募型ワークショップ)と公演を実施する事業ですが、来年度からは地域のニーズによって「地域交流」「市民参加作品創作」「公演」が選択できる枠組みに変わります。

今年度は現制度による最後の事業となり、トップバッターは、昨年度から広島に本社を置

く医療機器メーカーがネーミングライツを取得し改名した広島市のJMSアステールプラザ。9月12日から18日まで、北尾亘さんによる小学校へのアウトリーチ、ダンス・演劇等舞台経験者を対象にした公募型ワークショップ、そしてその参加者も出演した公演『KUTSUKUZU』が行われました。

アウトリーチ先の中島小学校はホールに隣接し、子どもたちは毎年社会科見学でホールを訪れています。今回は、3年生3クラス(各25人)を対象に、クラス別にワークを行いました。北尾さんは、バレエやヒップホップ、タップなどさまざまなダンスを紹介したあと、「こういうみんなが知っているダンスとはちょっと違うけど、体のいろいろな部分を動かして遊んでみよう」と誘い、子どもたちは風にゆられるように身体を動かしたり、1本足から2本、3本、4本、5本と足が増えていくお題に対して最初は戸惑いながらもすぐに発想を転換させ、身体のいろいろな部分を使って動き回ったりしました。そしてハイタッチ遊びからリズムを考えて身体を動かすことを体験し、最後は音楽を入れてダンス。「ふだんノリの悪い子どもが楽しんでた」「こうした創作はこれからもっと求められるようになるが、苦手な教員も多く、専門家に来てもらえるのがありがたい」「身体を使った新しい楽しみ方が発見できた」と先生たちにも好評で、今後も続けてほしいとの声が聞かれました。

公募型ワークショップには高校生から50歳代までの16人が参加し、その中から11人が公演に出演しました。北尾さんは、「僕自身、いろんなダンスの側面・要素のようなものを模索しながらダンスをしています。そうやって知らないカラダに出会えたり、知らない感覚に出会えることがとても楽しい。その一部でも伝えられれば」と話していました。

アステールプラザでは、平成19年度から毎年、近藤良平さんによる市民参加創作ダンスの発表を行っており、今回のワークショップには、そちらに関わっている若手ダンサーも参加していたため、新しいアーティストとの出会いは刺激になったのではないのでしょうか。

●平成28年度「公共ホール現代ダンス活性化事業」参加団体(主会場/アーティスト/日程)

- 広島市(JMSアステールプラザ/北尾亘/9月12日～18日)
- 福岡市(福岡市立中央市民センター/東野祥子/10月11日～17日)
- 飯山市(飯山市文化交流館なちゅら/田村一行/11月14日～20日)
- 岩見沢市(まなみーる岩見沢市民会館・文化センター/北尾亘/11月15日～21日)
- 島根県(島根県民会館/田畑真希/2017年1月17日～23日)
- 八尾市(八尾市文化会館プリズムホール/田村一行/1月24日～30日)
- 神戸市(神戸文化ホール/伊藤キム/2月6日～12日)
- 川西市(川西市みつなかホール/北尾亘/2月27日～3月5日)

●「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」に関する問い合わせ  
芸術環境部 粟林・湯澤  
Tel. 03-5573-4055・4077  
dankatsu@jafra.or.jp

## 財団からのお知らせ

### ●ステージラボ豊田セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。

今年度後期セッションは、豊田市民文化会館を会場に開催します。概要は以下のとおりです。詳細は、同封の募集要領でご確認ください。当財団ウェブサイトから参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

皆様のご参加をお待ちしております。

[日時] 2017年2月21日(火)～24日(金)

[会場] 豊田市民文化会館(愛知県豊田市小坂町12-100)

募集締切: 11月20日(日)必着

### ◎ホール入門コース(定員20人程度)

[コーディネーター] 林健次郎(愛知県芸術劇場企画制作部長代理 兼 広報・マーケティンググループ チーフマネージャー)

[対象者] 公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織にあっては年数不問)の職員

[コース特色] 公共ホール・劇場の新任職員のための基礎セミナーです。見よう見まねでやってきたこれまでの期間の業務を再点検するとともに、日々の疑問や悩みを共有し、これから自分や劇場がどこへ向かうべきかを一緒に考えます。

### ◎自主事業I(音楽)コース(定員20人程度)

[コーディネーター] 榎本広樹(りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 事業企画部 音楽企画課長)

[対象者] 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、音楽の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員

[コース特色] アウトリーチから地域経済活性化への寄与まで、公共ホールに期待される役割は年々その幅を広げていますが、忘れてはいけない自主事業の柱の一つはやっぱり公演事業! ということで今回は、公共ホールでクラシック音楽のコンサートを企画制作するときの重要項目を改めて分析し、いくつかの「役に立つノウハウ」をお持ち帰りいただきたいと考えています。

### ◎自主事業II(演劇)コース(定員20人程度)

[コーディネーター] 岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表、伊丹市立演劇ホール「AI・HALL」ディレクター)

[対象者] 自主事業を実施している公共ホール・劇場で、演劇の自主事業に積極的に取り組みたいと考えている、業務経験年数が2～3年程度の職員

[コース特色] 「地域活性化」のために、演劇には大きな可能性があるかと云えます。地域に根ざした活動を続ける劇場制作者の事例検証や演劇人によるワークショップのなかから、現代に求められる劇場のあり方を探す試みです。

### ●ステララボ豊田セッション参加申し込み方法

当財団ウェブサイト内の「様式箱」→「ステージラボ」より参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。  
<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

### ◎申し込み・問い合わせ

芸術環境部 上木・宇野  
Tel. 03-5573-4068・4066  
Mail: kensyu@jafra.or.jp

### ●「地域創造レター」に関する問い合わせ

芸術環境部 宇野  
Tel. 03-5573-4066

### ●雑誌「地域創造」に関する問い合わせ

芸術環境部 上木・小川  
Tel. 03-5573-4068

### ●地域創造レター PDF版閲覧のご案内

「地域創造レター」は、地域創造と各地域の公立文化施設、制作者等の文化・芸術関係者とを繋ぐ基本的な媒体として、各地域のユニークな公演・展示の情報や参考となる各地の取り組み事例、地域創造の事業のお知らせ等を掲載して毎月25日に発行しております。本誌は、PDF版を当財団ウェブサイトでもご覧いただけます。翌月1日頃に最新版を更新しておりますので、ぜひご利用ください。  
<http://www.jafra.or.jp/j/library/>



## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### ●公立美術館における出前型(オーダーメイド型)研修開催地募集のお知らせ

地域創造では来年度より「実践的な公立美術館運営能力の向上」ならびに「公立美術館の相互交流」を図るための出前型の研修事業を新たに開始します。

この研修事業では主に、

- 地域のニーズに沿ったカリキュラム編成
- 現地開催による研修参加者の負担軽減
- 地域創造負担による適切な講師の派遣
- ゼミ形式による参加者の相互交流の促進を具体的な狙いとしています。本研修事業を

地域創造と一緒にを行う公立美術館を募集します。皆さまのご応募をお待ちしております。

**募集締切:2017年1月31日(火) 必着**



モデル事業として行った高知県立美術館における研修での参加者全員によるディスカッション風景(2016年5月)

#### ◎対象となる公立美術館等

次の①の公立美術館が、②のいずれかの形態で参加することを要件とします。

①地方公共団体が設置し、以下の団体が管理運営する公立美術館(美術作品等の公開および保管を行う施設。博物館を含む)

- 地方公共団体
- 指定管理者(地方自治法第244条の2第3項)

②参加する美術館の形態

- 都道府県単位の複数の公立美術館
- 都道府県内外のまとまった地域の複数の公立美術館

#### ◎対象となる職員

公立美術館の学芸員、一般事務職員、当該公立美術館を設置する地方公共団体の行政部局の職員等

#### ◎申請者

- 都道府県単位の公立美術館の研修事業の場合は、当該都道府県立美術館

- 都道府県内外のまとまった地域における研修事業の場合は、地域の中核的な公立美術館

#### ◎事業内容(原則)

[開催地]申請をする公立美術館(以下、「申請美術館」)  
[参加者数]双方向型の研修を実施するため、20人以内  
[開催回数・開催時間等]

- 平成29年度、30年度の2年間について、内容の異なる半日の研修事業を、申請美術館の決定する日程において、複数回行います。

- 半日の研修においては、50分単位で3つのゼミ等を行います。

(例)1限:行政経験者によるゼミ

2限:学芸員等によるゼミ

3限:参加者全員による座談会

[カリキュラム]右欄の「研修項目」の中から、公立美術館の要望に沿って、申請美術館と地域創造が共同してオーダーメイド型で策定します。

#### ●「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」

##### ◎研修項目

- 今、公立美術館に求められているもの(使命)
- 予算などの確保の仕方
- どうしたら組織を上手に動かせるか
- 公立美術館等の連携
- 公立美術館に係る行政評価の上手なやり方
- 指定管理者制度の制度と運営のコツ
- 上司と部下の関係(職員の働き方)
- 経営のPDCAサイクル
- 組織人の持つべき基本的なスキル(コミュニケーション力、文書作成力等)
- マーケティングやプロモーション(広報)
- ショップやレストランの運営
- 文化政策のこれまでの流れと今後の方向
- その他、申請美術館が必要とする、公立美術館運営能力の向上に資するもの

##### ◎申請美術館としての業務

参加者への働きかけ、参加者名簿の作成、会場の設営、配布資料の印刷などの業務(なお、参加職員の旅費は派遣した公立美術館が負担)。

##### ◎申請方法

当財団ホームページの「様式箱」→「ステージラボ・アートミュージアムラボ」→「美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」より、申請書をダウンロードし、必要事項を記入の上、お申し込みください。

<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

##### ◎問い合わせ

総務部 吉崎

Tel. 03-5573-4053

### ●雑誌「地域創造」第40号のご案内



公立文化施設等の職員を対象とした芸術環境づくりのための雑誌『地域創造』第40号を、10月25日に発行しました。今号の特集は「地域をコーディネートする」。地域にある資源と人を有機的に繋ぎ、創造に結びつける地域コーディネーター・地域プロデューサーといった人々の活躍や地元の個性を生かす各地の取り組みをご紹介します。ぜひご一読ください。

#### ○特集「地域をコーディネートする」

- おおさか創造千島財団「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」(大阪市)
- 北九州芸術劇場「地域のアートレパートリー創造事業」(北九州市)
- おおやアート村 BIG LABO(兵庫県養父市)
- みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2016(山形市)

○空間のエスプリー国際的事例のビジュアルレポート  
カーザ・ダ・ムジカ(ポルトガル)

○体験レッスンー公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授

たかとりコミュニティセンターに多文化共生の取り組みを学ぶ  
○座談会

「転換期を迎えた“近代”美術館を語り合う」

○イラストSCOPEー伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート

「八女福島の燈籠人形」(福岡県八女市)

○SCOPEー地域の注目事例レポート

- 瀬戸内国際芸術祭2016ー小豆島(香川県小豆島町・土庄町)
- 横浜市歴史博物館「博物館デビュー支援事業」(横浜市)

○海外スタディーー海外の文化政策・制度紹介

フランス・アンジェ市の芸術文化環境ー複合劇場施設ル・ケを中心に

## 地域通信

### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 宇野・小川

### ●2017年1月号情報締切

11月30日(水)

### ●2017年1月号掲載対象情報

2017年1月～3月に開催もしくは募集されるもの

### ※お詫びと訂正

前号(10月号)の「アートプロジェクト」欄に以下の誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。

P.10 茨城県「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」タイトル  
KENROKU→KENPOKU

### 北海道・東北

#### ●北海道旭川市

北海道立旭川美術館  
〒070-0044 旭川市常磐公園  
Tel. 0166-25-2577 土岐美由紀  
<http://www.dokyoji.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>

#### 球子のひみつ一本画とスケッチで探る片岡球子の画業

近年行った、北海道生まれの日本画の巨匠・片岡球子(1905～2008)の約350冊に及ぶスケッチブックの調査を基に、最初期から最晩年までの多数のスケッチを、関連する日本画約30点とともに展示。この画家のスケッチは百歳の時に初公開され、没後の回顧展でも一部が出品されたが、これほどの規模での展示は初めてで、知られざる創作の過程を伝える貴重な機会。

[日程]10月27日～12月18日  
[会場]北海道立旭川美術館

#### ●秋田県大館市

新・秋田の行事実行委員会  
〒017-0031 大館市上代野字稲荷台1-1 大館樹海ドームパークセンター(大館市役所 産業部 観光課内)

Tel. 0186-43-7072 長崎弥生  
<https://shinakitanogyouji.jp/>

#### 伝統芸能の祭典

#### 新・秋田の行事 in おおだて2016

地域伝統芸能を守り、次の世代に受け継ぐことを目的とした祭典。西馬音内盆踊りや根子番楽など秋田県の伝統芸能や祭りをはじめ、青森県今別町の「今別の荒馬」、台湾から「酋長文化村歌舞劇団」を招き、全24団体



西馬音内の盆踊(秋田県羽後町)

が集結。各団体の熱演が繰り広げられるほか、秋田の食を楽しめたり、伝統文化とふれあうブースも設けられる。

[日程]10月29日、30日  
[会場]大館樹海ドーム

### 関東

#### ●茨城県水戸市

茨城県近代美術館  
〒310-0851 水戸市千波町666-1  
Tel. 029-243-5111 吉田衣里  
<http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>

#### 奇想天外!アートと教育の実験場 筑波大学〈総合造形〉展

メディアアーティスト・絵本作家の岩井俊雄、ユニークなパフォーマンスで知られる明和電機など、多彩な活動を繰り広げる筑波大学〈総合造形〉の卒業生たち。本展では彼らが学んだ教育現場に迫り、世界を舞台に活躍する三田村峻右や山口勝弘、篠田守男、河口龍夫など歴代教員、そして卒業生による作品とともに、奇想天外な教育手法も併せて紹介する。

[日程]11月3日～2017年1月29日  
[会場]茨城県近代美術館

#### ●千葉市

千葉県立美術館  
〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1  
Tel. 043-242-8311

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

#### メタルアートの巨人—津田信夫

千葉県佐倉市に生まれ、日本の近代工芸に大きな足跡を残した津田信夫(つだしのぶ 1875～1946)は、簡素化された形態美を追求し続けた。初期から晩年までの金工作品を中心に、陶器などを加えた約90点を展示するほか、活動を共にした工芸家の作品展示や、国会議事堂の扉制作をはじめとする依頼制作事業に関するコーナーにより、教育

者、工房の親方としての業績も紹介する。

[日程]10月25日～2017年1月15日  
[会場]千葉県立美術館

#### ●千葉市

千葉県文化会館  
〒260-8661 千葉市中央区市場町11-2  
Tel. 043-222-0201 小川展輝  
<http://www.cbs.or.jp/chiba/>

#### 青少年とニューフィル千葉との交流・体験コンサート

千葉県内唯一のプロオーケストラとして31年の伝統を誇るニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(10月1日から千葉交響楽団に改称)と地域で演奏活動に親しむ高校生と一緒にコンサートをつくり上げる。プロの指導を受けながら練習を重ね、一つのステージをつくり上げる経験を通して、将来の地域の文化芸術活動の担い手を育てることを目指す。今年が初めての開催。

[日程]11月23日  
[会場]千葉県文化会館

#### ●東京都豊島区

フェスティバル/トーキョー実行委員会

〒170-0004 豊島区北大塚1-15-10 東区市民事務所3F  
Tel. 03-5961-5202 小倉明紀子  
<http://www.festival-tokyo.jp/>

#### フェスティバル/トーキョー16

国内外から優れた舞台芸術フェスティバル。9回目となる今年のテーマは「境界を越えて、新しい人へ」。主催プログラムとして16演目・4企画を実施するほか、同時期に東京近郊で上演される14演目を連携プログラムとして紹介する。今回からの新たな取り組みである「まちなかパフォーマンスシリーズ」では、ジャンルの異なる4つの演目を劇場外の空間で上演する。

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[日程] 10月15日～12月11日  
[会場] 東京芸術劇場、あうるすぽっと、にしすがも創造舎、池袋西口公園、森下スタジオほか

### ●川崎市

川崎市岡本太郎美術館  
〒214-0032 川崎市多摩区枳形7-1-5

Tel. 044-900-9898 片岡香  
<http://www.taromuseum.jp>

#### 「つくることはいきること 震災《明日の神話》」展

震災による悲しみや苦しみの中で、創作や表現活動に何ができるのか。東日本大震災から5年目を迎え、被災者支援を行ってきたアーツ・フォー・ホープ(東日本大震災被災地応援アートプロジェクト)の作品や活動を紹介するとともに、被災後のアーティストたちの作品を展示し、岡本太郎の原爆をモチーフにした《明日の神話》を通してアートの可能性を問いかける。

[日程] 10月22日～2017年1月9日  
[会場] 川崎市岡本太郎美術館

### 北陸・中部

#### ●長野県長野市

長野県文化振興事業団  
〒380-0928 長野市若里1-1-3  
Tel. 026-226-0008 小市尚美  
<http://www.n-bunka.jp/>

#### 信州の民俗芸能

長野県の数ある民俗芸能のうち、国の重要文化財に指定されている「跡部の踊り念仏」「遠山霜月祭」「和合の念仏踊り」が一堂に会し、通常はそれぞれの地域以外で観ることのできない芸



長野県阿南高等学校郷土芸能同好会

能を一度に鑑賞できる。また、当日は長野県阿南高等学校郷土芸能同好会による「新野の雪祭り」も披露される。

[日程] 11月5日  
[会場] ホクト文化ホール

#### ●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団  
〒940-2108 長岡市千秋3-1356-6

Tel. 0258-29-7715 吉田恵子  
<http://www.nagaoka-caf.or.jp/>

#### 長岡リリックホール開館20周年記念日コンサート 響き合う歌声 ガラ・コンサート

「響き合う歌声」は若手声楽家育成のため、長岡が誇る世界的声楽家、故・中澤桂が生前プロデュースしてきた事業。開館20周年の記念日に中澤の功績を称え、日本歌曲を中心としたプログラムで、長岡にゆかりのある女性声楽家を中心に特別公演を行う。

[日程] 11月1日  
[会場] 長岡リリックホール

#### ●長野県須坂市

須坂市文化会館メセナホール  
〒382-0098 須坂市墨坂南4-5-1  
Tel. 026-245-1800 長谷川裕晃  
<http://www.culture-suzaka.or.jp/mesena/index.html>

#### メセナホール開館25年記念事業 響け!うたごえ～佐野成宏とメセナ祝典合唱団

ホール開館25年を記念して、日本の抒情歌や長野県歌『信濃の国』、この演奏会のために編曲した『須坂市民歌』などを、テノール歌手・佐野成宏と一般公募の合唱団180人が歌い上げる。合唱団は今年1月から発声の基礎練習、譜読み、パート練習を経て臨む。

[日程] 11月3日  
[会場] 須坂市文化会館メセナホール

#### ●長野県茅野市ほか

茅野市民館  
〒391-0002 茅野市塚原1-1-1  
Tel. 0266-82-8222 荻原みゆき  
<http://kikh.com/kaze2016/>

#### 宮沢賢治生誕120年記念 4館共同制作 小池博史ブリッジプロジェクト『風の又三郎2016 —ODYSSEY OF WIND—』

元パパ・タラフマラの演出家・小池博史が立ち上げたアートプロジェクトで2014年に初演した宮沢賢治原作の公演を、生誕120周年を記念して、ゆかりの地・仙台市をはじめ、長野市、茅野市、多摩市のホール4館で共同制作する。各館では公演に先立って「地域創作プログラム[KENJI]」が実施され、茅野市民館では「風の衣装を作ってみよう!」と題し、市内全小学4年生を対象に舞台衣装を手がけた浜井弘治によるオリジナルの衣装創作ワークショップと、創作した衣装を身に付けて公演を鑑賞するプログラムが行われる。

[日程・会場] 10月21日、22日: 長野市芸術館/10月29日: パルテノン多摩/11月1日、2日: 茅野市民館/11月6日: 日立システムズホール 仙台(10月18日プレス向け公演)



創作ワークショップ「風の衣装を作ってみよう!」

#### ●静岡市

静岡音楽館AOI  
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1-9  
Tel. 054-251-2200 小林旬  
<http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp/>  
静岡・室内楽フェスティバル2016

2011年に始まった室内楽フェスティバル。市内10会場で15プログラムのさまざまなコンサートが開催される。11月3日の「アマチュア・アンサンブルの日」では、公募によって集まった室内楽の市民グループ24組が、AOIホールのステージで約6時間にわたり演奏する。

[日程] 10月8日～11月23日  
[会場] 静岡音楽館AOIほか

#### ●浜松市

ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会  
〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1(浜松市文化振興財団内)  
Tel. 053-451-1151 後藤康志  
<http://www.wmf2016.jp/>

#### 世界音楽の祭典 in 浜松2016

2014年12月、アジアで初めてユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野に加盟した「音楽の都・浜松」に、加盟都市のうち13都市から、地域を代表するトップアーティストが集結し、多様な楽器と音楽文化がジャンルを超えて融合する新しいカタチの音楽祭を開催する。海外からの招聘団体は、浜松市内の演奏団体と市民交流コンサートを行い、文化の相互理解、音楽による国際交流を行うことで「創造都市・浜松」を体現させていく3カ年事業。

[日程] 11月3日～6日  
[会場] アクティシティ浜松ほか

#### ●静岡県富士市

富士市文化振興財団  
〒416-0953 富士市蓼原町1750  
Tel. 0545-60-2510 矢部哲也  
<http://rose-theatre.jp/>

#### 富士市制施行50周年記念市民ミュージカル『KAGUYA』

市制50周年を記念して新たに制作されたオリジナルミュージカル。市民に馴染み深い地元につながるかぐや姫伝説をモチーフに、近未来を舞台にしたSFファ

## Topics

### ●“生活都市”を舞台にした芸術祭が開幕 「さいたまトリエンナーレ2016」

127万人が暮らす“生活都市”を舞台にした「さいたまトリエンナーレ」。開幕前日、計34組のアーティストが市内3エリアで展開する主なプロジェクトを巡るプレストアが行われたが、アーティストによってさいたまがもつ重層性が浮き彫りになっていた。

さいたま市は、2001年に浦和市・大宮市・与野市の合併により誕生し、03年に政令指定都市に移行(05年に岩槻市を編入)。12年に、活力ある都市づくりの新たな指針として「さいたま市文化芸術都市創造条例」を施行。今回のトリエンナーレはその重点プロジェクトとして計画されたものだ。

ディレクターの芹沢高志さんは、「知人にさいたまのイメージを聞いて回ったが、何もないという返答がほとんどだった。それで逆になぜ何もないと言うのかに興味をもった。しかし、住宅街、工場、田畑、樹林、河川敷など何でもあり、日本を代表する土地利用がパッチワークのように存在し、東京を目掛けて新幹線や高速道路が走っている。島でも里山でも都市でもなく、ベッドタウンとも呼べない。何と呼べばいいかわからないようなあり様こそが、日本の典型的な生活の場であり、そういう場所性を表現できるのではないかと思った。今回のテーマは『未来の発見!』だが、それはハイテクな未来を夢見て付けたわけではない。他人のことに想像が及ばなくなるほど縮んでしまった我々のイメージーションを、生活の場面にアーティストの想像力をぶつけることで掻き立てて、何かを発見したいと思った」と話す。

通勤電車が非日常の場になる市民参加パフォーマンス、JR埼京線沿いの散歩道に設置された全長9.6メートルのビジネスマン像、ベッドタウンと夢(未来)を象徴する寝乱れた1,000個の枕のインスタレーション、ペットボトルの再生素材によるインスタレーション、上級公務員の暮らしぶりを覗き見るような旧宿舍での滞在創作、縄文時代は海だったという水の記憶をテーマにした作品、市内のウィークリーマンションに滞在して3カ月間自宛に送り続けた約500通の手紙、老朽化した区役所やホールや民家での展開など、さいたまを覗き見るつもりでツアーするのも面白いのではないだろうか。(坪池栄子)



●さいたま市 2016年9月24日～12月11日  
[会場] 与野本町駅～大宮駅周辺、武蔵浦和駅～中浦和駅周辺、岩槻駅周辺ほか  
[問い合わせ] さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局(さいたま市役所文化振興課 トリエンナーレ係)  
Tel. 048-829-1225  
<http://saitamatriennale.jp/>

上: マテイ・アンドラシュ・ヴォグリンチッチ《無題(枕)》の前で。左が芹沢高志さん、右がヴォグリンチッチさん  
下: アイガルス・ピクシェ《さいたまビジネスマン》



ンタジーで、小学4年生から60歳代までの公募による市民キャスト80人が半年間歌やダンスの練習を重ね、ステージに挑む。

[日程] 10月29日、30日  
[会場] 富士市文化会館

### ●愛知県豊橋市

豊橋市美術博物館  
〒440-0801 豊橋市今橋町3-1  
Tel. 0532-51-2882 丸地加奈子  
<http://www.toyohashi-bihaku.jp/>

### 市制施行110周年・美術博物館リニューアル記念展「NIHON画～新たな地平を求めて」

日本画の概念が揺らいでいる現在において、新たな地平を切り拓いていけるか、戦後のさまざまな革新的な試みをたどりながら検証する。戦後世代の日本画家の活動から、中村正義らの郷土作家の動向、新たな世代を顕彰するべく同館で1999年から開催している「トリエンナーレ豊橋～星野真吾賞展」の歴代大賞受賞作家まで55名の作品を、新たに増築された展示室も使い展示。

[日程] 10月29日～12月11日  
[会場] 豊橋市美術博物館

### ●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団  
〒440-0887 豊橋市西小田原町123  
Tel. 0532-39-8810 大橋玲  
<http://www.toyohashi-at.jp/event/performance.php?id=268>

### 高校生と創る演劇『女子にしか言えない～プールの底で見た、私の幻燈～』

オーディションで選ばれた18人の高校生出演者と、12人の高校生スタッフが、プロのスタッフと劇場のサポートのもと創り上げる演劇公演。3年目となる今年度は劇作家・演出家で劇団□字ツク主宰の山田佳奈が高校生との会話などからオリジナルの脚本を作成。演出も手掛ける。

[日程] 11月5日、6日  
[会場] 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

### ●豊田市

豊田市文化振興財団  
〒471-0035 豊田市小坂町12-100  
Tel. 0565-31-8804 原田秀樹  
<http://www.cul-toyota.com/event/engeki/entry-286.html>

### 第31回国民文化祭・あいち2016 とよたこども創造劇場修了公演『未・来・裁・判』

子どもたちの人間的な成長を促すとともに、未来の地域文化を担う人材の育成を目的に開催されている演劇事業。劇団あおきりみかん主宰の鹿目由紀が作・演出を手がけ、6年目を迎える本年度は、小学4年生から中学2年生までの児童・生徒47人が芝居を演じる。本事業を修了した中高生、地元演劇人も公演をサポートする。

[日程] 11月6日  
[会場] 豊田市民文化会館

## 近畿

### ●三重県津市

三重県文化会館  
〒514-0061 津市一身田上津部田1234  
Tel. 059-233-1100 小林由梨佳  
<http://m-pad.tumblr.com/>

### M-PAD 2016 おいしくてあたら しい 料理と演劇のたのしみかた

特定非営利活動法人パフォーミングアーツネットワークみえと三重県文化会館の協働で2011年から始まった事業。今年で6年目。県内の8つの飲食店で、俳優により文学・古典作品がリーディング上演され、上演前には食事も楽しめる。11月23日には本事業がモデルとした仙台市の「杜の都の演劇祭」との交換プログラムも行われる

[日程] 11月15日～26日

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[会場]三重県内飲食店ほか

### ●滋賀県大津市

びわ湖大津秋の音楽祭運営協議会

〒520-0047 大津市浜大津4丁目1-1(都市再生課内)

Tel. 077-528-2501 橋本剛

<http://biwa-on.jp/>

びわ湖に響け!

1000人の吹奏楽 with 淀工

「びわ湖大津 秋の音楽祭」のメインイベントとして2013年より始まった演奏会。今年も、滋賀県高島市出身で淀川工科高校の吹奏楽部顧問の丸谷明夫氏の指導を受け、同高校の吹奏楽部と、公募により参加の県内の学生・市民とが共演する。本事業を通じて音楽祭を広く県内外にアピールし、県内の吹奏楽のさらなる発展を目指す。

[日程] 11月3日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

### ●滋賀県米原市

滋賀県文化振興事業団

〒521-0016 米原市下多良2-137

Tel. 0749-52-5111 林孝好

<http://www.shiga-bunshin.or.jp/bunsan/>

芝居小屋「長栄座」公演  
祈願～慈愛の歌～ 歓喜～喜びの唄～

次世代育成と伝統芸能の普及・発信を目的とし、イベントホール内に特設舞台を設けて行う公演。第一部では、「和の祈り、洋の祈り」として九州真言宗声明詠歌青年会(聲明)、曹洞宗滋賀県梅花流師範詠範会(ご詠歌)、あふみヴォーカルアンサンブルが出演。第二部は滋賀県の民話を基にした狂言風邦楽ミュージカル『モグラの婿取り』を上演。一般公募による子どもたちも日舞で出演する。

[日程] 11月12日

[会場] 滋賀県立文化産業交流会館

### ●神戸市

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

Tel. 078-262-0901 河田亜也子

<http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

美術の中のかたち一手で見る  
造形 つなぐ×つつむ×つかむ:  
無視覚流鑑賞の極意

今年で27回目を迎える手で触れて鑑賞する展覧会。視覚障がいをもつ方へ鑑賞の機会を提供し、視覚に頼りがちな美術鑑賞のあり方を問い直す。全盲の文化人類学者・広瀬浩二郎の声によるガイドで、視覚を使わず全身の感覚を総動員して作品を“みる”ことで作品の新しい魅力を探る。

[日程] 7月2日～11月6日

[会場] 兵庫県立美術館

### ●神戸市

新長田アートコモンズ実行委員会

〒653-0041 神戸市長田区久保町6-1-1 アスタくにづか4番館4F(ダンスボックス内)

Tel. 078-646-7044 岩本順平

<http://www.shinnagata-artcommons.com/>

下町芸術祭2017プレ企画  
「下町アセンブリー」

2017年秋開催予定の「下町芸術祭」のプレイベント。まちなか防災空地や空き家対策としてのさまざまな取り組みを交えた、若手アーティストによる現代アート展。本企画を通して、多くの人に来てもらい、それがまちへの興味や愛着に繋がり、「地域活動する担い手の創造」や「アーティストの生活および制作拠点の創造」へと発展していくことを目的として実施。

[日程] 10月29日～11月6日

[会場] 角野邸ほか神戸市長田区南部を中心とする下町エリア

### ●兵庫県朝来市

生野ルートダルジャン芸術祭実行委員会

〒679-3301 朝来市生野町口銀谷791-1

(朝来市生野支所地域振興課内)

Tel. 079-679-2240 今村未希

<http://ikuno-art.com/>

生野ルートダルジャン芸術祭2016

日本屈指の歴史を誇る鉱山都市・生野を舞台に開催しているアート展。生野、明延、神子畑の鉱山は「鉱石の道」(ルートダルジャン)によって結ばれ、その道は今も人々を結び経済や文化の発展に大きく寄与している。4回目を迎える今年「出逢うーMy story of the Mineー」をテーマに、10組のアーティストが滞在制作。歴史的建造物などを舞台に、地域や人々との“出逢い”から生み出された作品が展示される。

[日程] 10月25日～30日

[会場] 生野町奥銀谷、太盛、口銀谷ほか



生野ルートダルジャン2014展示風景

### 中国・四国

### ●鳥取県鳥取市

鳥の劇場

〒689-0405 鳥取市鹿野町鹿野1812-1

Tel. 0857-84-3612 辻口実里

<http://www.birdtheatre.org/engekisai/>

鳥の演劇祭9

国内外のすぐれた舞台芸術を招聘し、地域から演劇を通じた交流・発信を目指すフェスティバル。9回目を迎える今年「土がつなぐ『演じる』と『生きる』」をテーマに、日韓の中高校生、大阪・釜ヶ崎で表現活動に携わる人々、沖縄の劇

団、山陰を撮り続ける写真家など、しっかりと地に足をつけて生きている人たちのエネルギーに、演劇を通じてふれることができる。劇団鳥の劇場による野外上演やリーディング上演もある。

[日程] 11月19日～27日

[会場] 鳥の劇場ほか鹿野町内各所

### ●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5

Tel. 0857-21-8700 野田景子

<http://site.torikenmin.jp/>

鳥取県文化振興財団プロデュース  
創作公演 第2弾 弦楽アンサンブルコンサート  
Tottori String Orchestra

特色ある地域文化の伝承・発展、新しい文化芸術の創造を目指してオリジナルの舞台公演を企画・制作する財団のプロデュース公演。今回は第2弾として、鳥取県の“弦楽”文化に焦点を当て、国内外で活躍する鳥取県出身アーティストを中心に構成するアンサンブルとフェリックス・アーヨ(ヴァイオリン)が共演する。第1部は、アーヨとのソリスト共演。第2部では、県出身アーティストの独奏2曲が演奏される。

[日程] 11月6日

[会場] とりぎん文化会館

※地震の影響により「鳥取県立倉吉未来中心」から会場変更

### ●岡山県倉敷市

アートプロジェクトおかやま連携会議

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6(岡山県文化振興課内)

Tel. 086-226-7903 藤上努

<http://apo8092.jp/>

クラシック音楽と舞踊のコラボレーション

クラシック音楽・日本舞踊・現代舞踊とそれぞれ異なる個性が融合する総合的な舞台が岡

山県初の取り組みとして開催される。出演者は、岡山県ゆかりのメンバーを中心としたプロ・アマで構成され、聞き馴染みのある曲の演奏に合わせ、岡山県の美しい情景を折り込んだ創作舞踊が披露される。

[日程] 10月30日  
[会場] 倉敷市民会館

#### ●広島県廿日市市

廿日市市教育委員会  
〒738-8501 廿日市市下平良1-11-1  
Tel. 0829-30-9203 重村幸雄  
<http://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/soshiki/58/12223.html>

#### 素敵なステージ! ~オペラとミュージカル~

第26回廿日市市生涯学習フェスティバルの市民参加型のメイン公演。市民にオペラ・ミュージカルに親しんでもらうことを目的に開催。地元で活動する市民オペラ合唱団、はつかいち市民ミュージカル、山陽女学園中等部・高等部ミュージカル部が、各演目の名場面を上演する。

[日程] 11月6日  
[会場] はつかいち文化ホールさくらびあ

#### ●徳島県徳島市

ジャズが流れる街・徳島推進委員会  
〒770-8570 徳島市万代町1-1 (徳島県とくしま文化振興課内)  
Tel. 088-621-2249 大崎理英  
<http://tokushima-jazz.com>

#### 徳島JAZZ 2016

28年前からジャズストリートが続いている徳島を“ジャズが流れる街”として発信するため、推進委員会を組織し昨年からはまったイベント。今年はプロミュージシャンからジャズのアドリブやアンサンブルを学ぶワークショップも開催。市街地を流れる川沿いの4会場で国内外のミュージシャ

ンが演奏し、ワークショップ参加者も共演する。

[日程] 11月20日  
[会場] 徳島市両国橋西公園、東新町商店街ほか

#### ●香川県東かがわ市

とらまる人形劇カーニバル実行委員会  
〒769-2604 東かがわ市西村1155 (とらまる公園内)  
Tel. 0879-25-0055 貴志周  
<http://www.toramaru.jp/>

#### とらまる人形劇カーニバル2016

全国でも珍しい人形劇の体験型博物館と人形劇場をもつとらまる公園内で行われる人形劇の祭典。今年で32回目を迎える。国内のプロの人形劇団や県内のアマチュア劇団、地元の小学校の人形劇クラブが一堂に集まり開催される。ほかにも、ワークショップや工作、ゲームといったレクリエーションも充実。

[日程] 10月28日~30日  
[会場] 人形劇場とらまる座

#### ●愛媛県内子町

内子座創建100周年事業実行委員会  
〒791-3392 喜多郡内子町内子1515 (内子町町並・地域振興課内)  
Tel. 0893-44-2118 (内242) 高山重樹  
<https://www.town.uchiko.ehime.jp/site/uchikoza/>

#### 内子座創建100周年記念公演 東西狂言の競演

2014年から始まった内子座創建100周年記念公演。1、2年目は茂山狂言の公演、3年目の集大成となる今回は茂山狂言と野村狂言の競演が行われる。『清水』では野村万蔵と茂山千三郎が1日ずつ交代して役を演じるほか、結成3年目となる内子子ども狂言クラブの子どもたちが両名と共演する内子町を舞台にした新作狂言『かみ遊び』の初演

など、5つの演目が行われる。

[日程] 10月29日、30日  
[会場] 内子座



内子子ども狂言クラブ(平成27年度伝統芸能まつりの舞台の様子)

#### 九州・沖縄

#### ●熊本市

熊本市現代美術館  
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3F  
Tel. 096-278-7500 富澤治子  
<http://www.camk.or.jp/>

#### G3 vol.113 熊本市現代美術館所蔵作品より 被災作品 公開コンディションチェック展

地元の作家を紹介する、展示室「ギャラリーⅢ」での展覧会「G3」。113回目の今回は、熊本地震後、“こころの避難所”を目指し再び開館した美術館が地震による被害等を確認することを目的とした展示となっており、会期中3回の展示替えに合わせて、コンディションチェックの様子も公開される。現在の思考を未来へと受け継ぐ熊本の大切な文化財として、被災した所蔵作品が1点ずつどのような状態なのか確認・公開することにより、震災の記憶を残していく。

[日程] 11月9日~27日  
[会場] 熊本市現代美術館

#### ●大分県大分市

iichiko総合文化センター  
〒870-0029 大分市高砂町2-33  
Tel. 097-533-4004 八坂千景  
<http://www.emo.or.jp/>

#### サティをめぐる音楽と絵画

隣接する大分県立美術館との連携企画。エリック・サティ生誕150年を記念した福間洸太郎に

よるピアノ演奏会。開演前には「サティをめぐる画家たち」というテーマで、美術館副館長によるプレトークが開催されるだけでなく、美術館ではサティと親交のあったピカソやユトリロなどフランス絵画を中心にしたコレクション展を開催。近隣商店街20店舗とも連携しており、チケットを持参すると各店舗でフランスに関するさまざまなサービスを受けられる。

[日程] 11月19日  
[会場] iichiko総合文化センター

#### 講座・シンポジウム

#### 劇場塾2016

地域文化を担う人材の育成を目的に2012年より実施している講座。「地域コーディネータークラス」と「劇場基礎クラス」を設け、地域文化の振興を担う人材の育成や人的ネットワークの形成のため、双方向のゼミ形式でワークショップを織り交ぜたプログラムを実施。このほか文化芸術に関心のある市民も参加できるオープンレクチャーを11月、2月、3月に開催する。

[日程] 11月18日、19日、28日、29日  
[会場] 問い合わせ 北九州芸術劇場  
Tel. 093-562-2620  
<http://www.kitakyushu-performingartscenter.or.jp/>

#### クリスマス・新春企画 情報求む!

12月号(11月25日発行予定)では恒例の「クリスマス・新春企画特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4066  
Fax. 03-5573-4060  
[letter@jafra.or.jp](mailto:letter@jafra.or.jp)  
締め切り: 11月初旬

## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●東京都台東区

##### たなか舞台芸術スタジオ

〒111-0021 台東区日本堤2-25-4 たなか多目的センター2F  
Tel. 03-5808-7327

<http://tanaka-butaigeijutu.jp/>

◎2015年4月1日オープン



台東区では初めての舞台芸術活動を支援する施設。同区内で実施する「したまち演劇祭in台東」に参加する団体から、区内で長期的に使える稽古場が少ないという声が挙がったのをきっかけに、旧田中小学校の2階部分を稽古場スペースとしてリニューアルしオープンした。

利用対象者は演劇・芸能・舞踊等の制作・発表を目的に活動する団体・個人で、最大60日まで連続して利用することができ、同区内での公演に向けた稽古等に使用する場合は使用料が50%減額される制度を取り入れている。無線LANを備えた制作室や備品は、稽古場を利用する団体はすべて無料で使うことが可能。

区内だけでなく近隣地域からの利用申請登録もあり、施設と利用者、また利用者同士の情報交換を活発化させており、文化支援拠点の活動に今後も期待がかかる。

[オープニング事業] 演劇ワークショップ①「ミュージカルってなあに?」、②「ミュージカル体験講座～ミュージカルの創り方～」  
[施設概要] 大稽古場(128m<sup>2</sup>)、小稽古場1・2(64m<sup>2</sup>)、制作室(各20m<sup>2</sup>)、交流サロン  
[設置者] 台東区  
[管理・運営者] 台東区

#### ●岐阜県多治見市

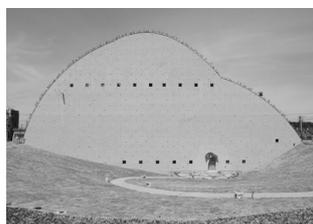
##### 多治見市モザイクタイルミュージアム

〒507-0901 多治見市笠原町2082-5

Tel. 0572-43-5101

<http://www.mosaictile-museum.jp/>

◎2016年6月4日オープン



モザイクタイル発祥の地であり、全国一の生産量を誇る多治見市笠原町にオープンしたミュージアム。業界関係者が主体となり収集してきた膨大な資料を生かし、タイルにまつわる歴史や情報の展示のほか、文化・歴史・建築など幅広いテーマの企画展示を実施し、タイルを使った工作などを行える体験工房も併設されている。また、産業振興のためショールーム的なフロアが設けられ、企業が制作したパネル展示などにより最新のタイル情報を知ることができる。

4階建ての建物は粘土山を思わせる丸みを帯びた外観で、内部は2階から4階まで大階段で繋がる構造となっている。産官協働のミュージアムとして、業界のもつ技術、デザイン、商品開発の力によってさまざまなジャンルと連携しながら、地域の産業と産業文化を世界に発信することを目指す。

[オープニング事業]「Echoes Infinity—永遠なる物語—大巻伸嗣」展  
[施設概要] 展示室3室(228.25～170.80m<sup>2</sup>)、ギャラリースペース、体験工房ほか  
[設置者] 多治見市  
[管理・運営者] (一財)たじみ・笠原タイル館  
[設計者] 藤森、エイ・ケイ、エース設計共同体

#### ●兵庫県相生市

##### 相生市文化会館 扶桑電通なぎさホール

〒678-0041 相生市相生6-1-1  
Tel. 0791-23-7118

<http://www.nagisa-aioi-hyogo.com/>

◎2016年4月2日オープン



老朽化や耐震性の問題から相生市民会館の施設の建て替えを検討。「相(とも)に生きる市民がつどい文化と絆を築くまちづくりのステージ」を基本理念として、西に相生湾、三方になだらかな稜線をもつ山々と、豊かな自然に囲まれた立地を活かし、「相生湾に浮かぶ船」や「棧橋」をデザインに反映することで、造船を中心に栄えたまちの記憶の継承と未来の相生の創造など、新たなランドマーク、文化発信の拠点として誕生。

大ホールは市内唯一のホールとして多目的な用途に対応できるようプロセニウム形式を採用。室形状からこだわり、舞台の演奏者から客席に直接届く(直接音、反射音(初期反射音)の強さ、時間的構成、到来方向などさまざまな要素をシミュレーションし、最も適した形状としている。開館以来、来場者へのアンケート調査など随時行っており、「企画委員」と呼ばれる市民委員と協議を重ね今後の施設運営の方針を検討していく。

[オープニング事業] 宮川彬良指揮クラシックコンサート  
[施設概要] 大ホール(606席)、中ホール(311m<sup>2</sup>)、小ホール(98m<sup>2</sup>)、会議室、音楽スタジオほか  
[設置・管理・運営者] 相生市  
[設計者] (株)三弘建築事務所

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

情報担当 宇野・小川  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4066  
[letter@jafra.or.jp](mailto:letter@jafra.or.jp)

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 石川県金沢市

### 金沢市民芸術村20周年 「市民が主役」



上：金沢市民芸術村外観/下：8日の「ジャズの日」には、芸術村を拠点に活動するジュニア・ジャズ・オーケストラ「JAZZ-21」が登場

#### \*1 金沢市民芸術村概要

大正期から昭和初期にかけて建造された煉瓦造りの元紡績工場の建物と敷地を市が購入して、複合練習施設に再生(敷地面積約9.7ha、延べ床面積約4,200㎡)。ドラマ工房、ミュージック工房、マルチ工房、アート工房となり、このほか、オープンスペース、パフォーミングスクエア、里山の家、事務所棟、カフェレストランがある。また、敷地内には金沢職人大学校を併設。

\*2 各工房の市民ディレクターが中心となって市民で企画し、実施する事業。概ね年間5~6プログラム。予算は3つの工房合わせて年間2,000万円程度。

\*3 開村当時から10年にわたって行われたアクションプランの戯曲講座の参加者と文学座演出家の西川信廣などが09年に立ち上げたプロ、アマの垣根を超えたユニット。

\*4 16年3月に「金沢市文化における文化の人づくりの推進に関する条例」を制定。金沢伝統芸能文化親子体験講座、文化施設を活用した人づくり推進事業、金沢ひとりづくり学生塾、金沢の文化人づくり助成など切れ目ない支援を体系化。ふるさと納税により「金沢市文化の人づくり基金」を創設する計画。17年「第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ」、18年「東アジア文化都市」、19年の「東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム」、20年「国際工芸サミット」などを道標として掲げる。

1996年に「市民による自主運営」「24時間365日稼働」「低料金」という画期的な運営方針を掲げてスタートした金沢市民芸術村<sup>(\*1)</sup>。その20周年を祝う記念事業が10月8日~10日に開催された。タイトルは「市民が主役」。日頃から芸術村を利用する音楽や演劇などのグループ87組が参加。初日には山野之義市長の講演に続き、ミュージック工房では芸術村の自主事業(アクションプラン)<sup>(\*2)</sup>で誕生した金沢ジュニア・ジャズ・オーケストラJAZZ-21など11グループが演奏。ドラマ工房ではこちらもアクションプランで生まれた演劇ユニットK-CAT<sup>(\*3)</sup>によるリーディング公演などが行われた。5代目芸術村村長の普照豊は、「市民が主役」は芸術村の不動の精神。その原点を確認した、出演する人や運営する人、そして見る人も市民という記念イベントです」と胸を張った。

この20年間、芸術村を利用した団体は延べ28万9,000団体、利用者は延べ340万人を超える(2016年3月現在)。開設準備室時代から携わり、現在も総合ディレクターを務める大場吉美は、「ハレ」と「ケ」で言えば、ここはケの施設。日常的に文化芸術に親しみ、心の汗を流して自分の中に元気をつくるための場です。市民にとって今や芸術村はあって当然の存在になっています」と語る。

事実、日中の利用はもちろん、会社員が出勤前にピアノ練習に訪れ、仕事を終えた若者たちが深夜に練習することも当たり前の光景になっている。こうした利用が可能なのも、行政による管理中心主義を廃し、設置条例にも「市民参加による自主的な運営」や「24時間利用」を明記し、市民の自主的な運営を貫いてきたからだ。

運営は、開村当初から市が運営する財団が担っているが、一貫して各工房に利用者代表の市民公募ディレクター各2名(現在は計7名。当初は無償だったが現在は実費を保証するため有償ボランティア)を置き、利用者へのルールの周知徹底やアクションプランの企画・実施などに当たってきた。

「ディレクターがことさらエライわけではありま

せん。4~5年で交代して、多くの市民がこのこの運営に関われるようにする制度です」と井口時次郎ドラマ工房ディレクターは言う。井口は高校の非常勤講師のかたわら、劇団を主宰。「芸術村をつくる時、金沢の演劇関係者が集まって金沢演劇人協会を結成し、要望を出しました。それに市は最大限応えてくれた。ということは、僕らはやるしかない。だから、安全に舞台を使うための講習会も毎年更新制で実施してきました。20周年記念事業では、12月まで毎週末、市内で活動する劇団が公演を行うかなざわリージョナルシアター演劇祭を行います」。

ミュージック工房の木埜下大祐ディレクターは海外での活動経験もあるフルート奏者だ。「開村2、3年目から練習に使っていましたが、ここが画期的だったのは、個人練習ではなくアンサンブルなどの音合わせができる施設だったこと。そうした中で利用者間の交流も自然に生まれてきました」と話す。昨年からは、海外と連携したオペラ公演などにも意欲的に取り組んでいる。

講演で山野市長は芸術村について「当時の山出保市長が市民を信頼した英断により金沢市民芸術村は生まれました」と言い、その成果を踏まえて、「金沢市文化創生新戦略(2015~2020年)」<sup>(\*4)</sup>と旧俵小学校を第二の練習施設にする計画を披露した。講演後、市長に芸術村の果たしてきた役割を改めて尋ねると、「金沢にはしっかりとした地域コミュニティが残っていて、そこを信頼したからこそ市民の自主運営が実現しました。文化のインキュベーション施設としての芸術村の存在は、確実に金沢の文化土壌を広げ、深めました。その裾野をさらに広め、支援するため『文化の人づくり条例』を制定しました」と答え、今後は地域コミュニティを補完するNPOとの連携も視野に入れていきたいという。

「現在も芸術村への視察・取材は年間40件を超えます。活動団体が固定化するなど課題もありますが、子どもたちの利用を増やす工夫をするなど、これからも市民が主役であり続ける施設を見守っていききたい」と村長。「市民との信頼関係」という果実を手に、100年後も存在し続けることを願ってやまない。(田中健夫)